

○委員からの意見徴取シートまとめ

【事前配布資料2】

種別	項目	内容
キャッチコピー	キャッチコピー案	「緑豊かなグラウンド みんなの学び舎」 ・知る—私たちが生きる世界を知る ・育む—すべての人の可能性を育む ・伝える—豊かな心を未来に伝える 緑→平和の象徴 グラウンド→生活拠点 みんな→すべての人 学び舎→理解を深める場（図書館） 「知る」「育む」「伝える」ことを図書館という学び舎で、みんなが学んだ結果、豊かな心が育まれ、肥沃なグラウンドを形成し未来に渡していける財産となる。
	キャッチコピー案	・「花のまち柴田」の本と出会い、人をつなぐ、ガーデン ・本と出会い、人をつなぐ、「花のまち柴田」のガーデン ・本と出会い、人をつなぐ、「花のまち柴田ガーデン」 「地域～」は、「出会い、つなぐ」の結果として町づくりになるので、キャッチコピーには入れずに、イラストに入れる。 ・「花のまち柴田」の本と出会い、人をつなぐ、地域を創る、ガーデン ・本と出会い、人をつなぐ、地域を創る「花のまち柴田」のガーデン ・「花のまち柴田」の本と出会い、人をつなぐ、地域を創る、学都ガーデン ・本と出会い、人をつなぐ、地域を創る「花のまち柴田」の学都ガーデン 地域住民と創る図書館の意味も込め「地域を創る」または「地域をともに創る」。 「学都」を使う場合は、説明が必要。 ・「花のまち柴田」の本と出会い、人をつなぐ、知のガーデン ・本と出会い、人をつなぐ、「花のまち柴田」の知のガーデン 「ガーデン」を「知のガーデン」や「知の拠点」「知のベース」にする案もありますが、語順によってはくどくなります。

種別	項目	内容
基本理念	「観光客等の関係人口」	町が作った観光施設のようなイメージがついてしまう。観光面は図書館以外のエリアのほうがイメージしやすい。「広く地域に開かれた図書館」など。
	観光	基本理念に突如として観光が現れるのに違和感がある
	「育む」	→未熟で擁護される対象というイメージがある。地域住民と一緒に作り上げるという意味であれば、「ともに育つ」など。
	「グラウンド」	競技場や運動場のイメージ、花とつながらない 「ガーデン」:「しばたのオープンガーデン」、「コミュニティガーデン」「花の丘柴田」 「フィールド」:自然に興味のある人は、野原や畑、観察フィールドをイメージする
	持続性のある持続可能な	循環するイメージという部分には「持続性のある」「持続可能な」という点が重要ではないかと感じました。 アンケートをみても学習、交流場所として「人が集まる場所」としては潜在的なニーズがあるのかと感じた一方で、現在の利用状況や利便性、今後の人口減少、本の出会い方が図書館以外で増加している(youtube, サブスク、オーディブル等)ことを考えると「(紙の)本との出会い」を図書館という場所に求めている総数はゆるやかに減少していくと感じます。 前回の会議の中で、アンケートは図書館に多少なりとも興味がある方が回答して下さっているという側面を加味しておく必要があるというお話がありましたが、図書館検討委員側も図書館に現在関わりのある方、自分を含め興味がある方しか参加していない点を認識しておく必要があると感じました。 今後15年—20年程度の人口予想は出ていると思いますが、その予想税収の中で持続的に運営できる図書館が必要だと思います。
基本方針		図書館要覧のような内部よりの資料ではなく、図書館運用時に一般町民に発信する基本方針だと考えて意見いたします。 パッと見て5つは多いと感じました。興味のない人にも訴えかけるには3つぐらいに集約した方が良いと思います。 HPのイメージで言うと、関心のある人はリンクを追って見るので、先頭ページは簡潔で目を引くものにする。 行政(図書館)として、どのような姿勢で町民と向き合うのかも、どこかで明記して欲しいと思います。

種別	項目	内容
基本方針	「レファレンスサービス」	レファレンスサービスでは分かりづらく、専門的な用語には工夫が必要です。 柴田町図書館要覧：レファレンス（調べものの相談） 第1回事前資料 3 柴田町図書館の現状と課題 P 4 下段 ＊2レファレンス：調査相談 新花巻図書館：レファレンスサービス（相談支援） レファレンス協同データベース：調査相談（レファレンス）
	「子ども」	子どもを強調することは、個人的には賛成ですが、限った事ではありません。全世代に対して読書支援が必要です。 また「推進」では「誘導、やらされている」と感じます。後押し「支援」の方がプレッシャーが無いです。
	図書館職員の方針	基本方針は図書館の来館者に対しての方針であるが、ここに図書館職員の方針を入れてみるのはどうか？（チャレンジを促せるような方針）
	基本方針案	I 図書館サービスの向上 基本サービスの充実：住民に寄り添い必要とされるサービスの充実を目指します。 利便性の向上：誰もが使いやすく居場所となる環境を目指します。 他にも司書さん達にアピールポイントを上げて貰う。 II 読書活動の支援 子どもに読書の機会を提供し、楽しさを感じて貰える環境を整えます。 町内の各読書支援施設との連携を深め全世代への読書支援を目指します。 III 参加できる図書館 地域住民とのつながりを重視し、地域の拠点となる、ひとりひとりがプレーヤーとなれる参加できる図書館を目指します。
	■理念と方針を紐づけるためのアイデア	別紙イメージ図参照
	基本構想全体について	知的好奇心がそそられる空間や図書館で展開するさまざまな事業が、また行ってみたい、来てみたいと思わせる原点になりうるのではないかと。そのイメージは、デザイン力と文化・アートといった創造的な分野、そして、まちづくりや産業といった他分野との連携がなされる余白が必要と言えます。

